
しょうもない相談

マスカレードF

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しょうもない相談

【Nコード】

N1402Z

【作者名】

マスカレードF

【あらすじ】

深夜、妹と妹の恋人からの相談。

まったくしょうもない話です。

『ああ、聞いてください、お姉さん。貴方の妹はそれは酷い人なんです』

……今いつたい何時だと思っているの？切るわよ。

『そんな酷い！なぜそんな酷い仕打ちを！？』

あんた酔ってるわね。酔いを醒ましてからまた出直してらっしゃい。まったく付き合ってらんないわ。

『お願い！聞いてお姉ちゃん！彼ったら本当に酷いのよ！』

……あなた今何時だと思ってるの？ああもう……手短に話さない。

『ありがとう！大好きよ、お姉ちゃん！そう、彼ったらね突然私が浮気したなんて言い出すの！なぜなのかしら？本当に突然だったの』

よ！私と気分よくお酒を飲み交わしていたというのに！さっきまで笑っていたというのに！突然！』

突然かどうかなんて、そんな大事なことじゃないでしょう。

『あら、これは今後のためにも重要なトコロよ。どうしてかしら。なぜかしら。……なんでバレたのかしら』

そんなこと、本人に聞けばいいじゃないの。

『聞けるわけないわ。一応私、否定したもの。否定して逆に疑う彼をこっぴどく非難してやったんだもの』

……。まあ、もうバレてると思うけれどもね。……具体的にお話なさい。

『そうねえ。彼と二人でソファに座って、ワインを開けたわ。年代物の美味しいヤツを。華奢なグラスで乾杯してコクリ。彼ったらお酒に弱いよ。一口で真っ赤になっちゃって可愛かったの』

さっきもまだ酔ってたわよ。……まあ、貴方も相当酔っ払っているけどね。

『あら、彼と会ったの？』

いいえ。かかってきたのよ。あなたの愚痴を私に聞いて欲しいって。あなたより先にね

『もう！彼、お姉ちゃんのことも好きなのよ。呆れちゃうわ。お姉ちゃんは私のお姉ちゃんなのに！』

そうよ、私はあなたのお姉ちゃん。で、続きをどうぞ？

『ああ、そうそう。真っ赤な彼が可愛くってキスしたの、私から。それはもう蕩けるような甘くて深いやつを。一発キメてあげたの。そしたら言われたの、お前浮気してるだろうって。わけが分からないわ』

うん。確かにそれだけじゃあ、分からないわねえ。

『お姉さん！彼女の話には語弊があります！！』

なによ、またあなた？こんな夜中にあなたの話は聞きたくないのよ。

『そんなひどい！でも聞いてください！僕の方から積極的に彼女の浮気を指摘したのではないのです！彼女の方が僕にそう指摘するよう仕向けたのです！僕はただ彼女の濃厚なキスに酔いを深くしていただけで、そんな、せっかくのイイ雰囲気台海無しにするようなこと、考えもつきませんでした！！』

五月蠅い酔っ払いねえ。もう切っていいかしら。喧嘩は二人だけでして頂戴。

『なんでお姉さんはそんなに僕に冷たいのです！？とにかく、僕がコトを進めようとした矢先、彼女がいきなり冷たく僕の手を払いのけて言ったのです！なんにも気づかないのね、愚図なんだから、つて！！気づくってなにを！？頭が真っ白になりましたよ。でもそこで考えを廻らせれば、そう！彼女のキス！今しがたされた彼女からの濃厚な、かつて経験したことの無いような熟されたキス！この前した時はもっともつときこちなくて、唇を離れた時も頬を染めて恥じらいながら可憐に俯いたというのに！なのに今、目の前の彼女はそれは妖艶に僕を見下ろしているではありませんか！！僕と会っていない数日の間にこの変貌ぶり……そんなの、答えはただ一つしかありませんよ……ううっ』

もう切るわね。馬鹿みたい。

『もしもし、お姉ちゃん！』

なによ、今度はあなたなの？

『うん。話を聞いてくれてありがとう。おかげで疑問は解消したわ。なぐんだ、そういうことか』

疑問解消したようで良かったわね。これで相談は終了、私も安眠できそうね。

『なあに。彼って本当に馬鹿。私、ただこの新しいワンピースを褒めて欲しかっただけなのに。彼ったら早々に脱がそうとするんだもん。信じられないわ。その前に、これハジメテ見るけど似合ってるね、くらい言えないものかしら。高かったのよ、コレ』

愚図な男と付き合ってる貴方が悪いのよ。大体、あなた、いつも最初は初心ぶってるのが悪いわ。もつと最初からなにもかも分かっているのを出してればこんなアホなことにはならないのに。

『えへ だって彼、初心な娘が好みだって言ってたんだもの』

だったら、最後まで初心で通してあげなさいよ。

『もう飽きちゃったの。初心振るのも、彼にも』

なら、もう別にこの話はいんじゃないの？

『うん、ホントは最初からどうでも良かったの。ただ、久しぶりにお姉ちゃんと話したかっただけ』

あら、可愛いこと言ってくれるじゃない。

『うん、私、お姉ちゃんのこと世界で一番大く好きだもん』

『もしもし田崎さん？管理人です』

あらあら管理人さん。こんな時間に何用ですか？

『分かっているでしょう？妹さんと妹さんの恋人のことですよ』

さてなんのことやら。

『しらばっくれてもいけません。早く引き取って下さいな。先ほどからあなた達はインターフォンでくだらない事を喚き散らして迷惑極まりないったら。フロントのインターフォンは公用物ですよ。それを私事でずっと独占して。今は重なって二人、フロントの床でぐうぐう眠っています。さっきよりは静かになりましたけど、今度は交通の邪魔です』

そんな酔っ払い、私知りません。

『……警察呼んじやいますよ？』

……すみません。身内です。女の方は、私の妹です。

『よろしい。では引き取ってもらえますね』

ええ、女の方だけ。男はいりません。

『そうですか。なら男の方は警察に引き渡しますね』

はい、そうしてください。迷惑ですもの。

『ええ、甚だ迷惑です』

(後書き)

恋愛小説を書いてみたいです！

すごく切ない感じのものを書いてみたいです！

精進します……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1402z/>

しょうもない相談

2011年12月4日23時46分発行